



工事の概要について説明を受ける生徒たち

新しい校舎が楽しみ

弟中生が新校舎建築現場を見学



コンクリート打ちっ放しの現場を見学

弟子屈中学校(吉田亭校長の生徒が12月9日、10日にかけて、同校の新校舎建築現場の見学を行いました。普段入ることができない工事現場を視察することで、生徒に新校舎のイメージをつかんでもらうことを目的に、同校が企画・実施したものです。施工業者の協力の下、現在建築工事が進められている新校舎の見学を行いました。

3月10日の工期を目指して建設が進められている新しい弟子屈中学校校舎は、鉄筋コンクリート造3階建て。校舎と体育館、給食センターを一体的にした構造で、太陽光発電や自然光・自然換気による室温管理を取り入れ、利便性と環境に配慮した造りとなっています。また、地域の防災拠点としての役割も担います。

見学を終えた生徒からは「たくさんの方が工事にかかわり、一生懸命に仕事をしていることが分かった」「新しい校舎が楽しみ」などの感想が聞かれました。

長年の尽力に感謝

統計功労者3人を表彰



左から山口さん、中村さん、藤本さん

統計功労者表彰伝達式が12月17日、役場で行われ、長年、統計調査業務に尽力してきた3人の方が表彰されました。

表彰を受けたのは、農林水産大臣表彰が中村友一さん(73歳・泉4)、統計功労者北海道知事感謝状(10年級)が藤本義明さん(78歳・川湯温泉7)と山口道則さん(74歳・奥春別)です。

中村さんは、1962(昭和37)年から、多くの統計調査に調査員や指導員として従事してきました。2000年の世界農林業センサスで、同調査の調査員として初めて従事。2005年と2010年の世界農林業センサスでは指導員として従事し、知識と経験を生かした的確で迅速な調査員への指導により、世界農林業センサスの実施に尽力したとして、今回の受賞となりました。

藤本さんは1980(昭和55)年の国勢調査で、山口さんは1994(平成6)年の農林業センサスで、それぞれ初めて調査員を務めて以来、10年以上統計調査員として職務に精錬し、統計調査の推進に寄与したことにより、道知事からの感謝状が贈られました。

伝達式では、徳永町長から一人一人に表彰状や感謝状が手渡されました。徳永町長は「お忙しい中、長く務めていただいた」と感謝の意を述べ、皆さんは「協力してくれた地域の方のおかげ」と話していました。

町の話



町の話

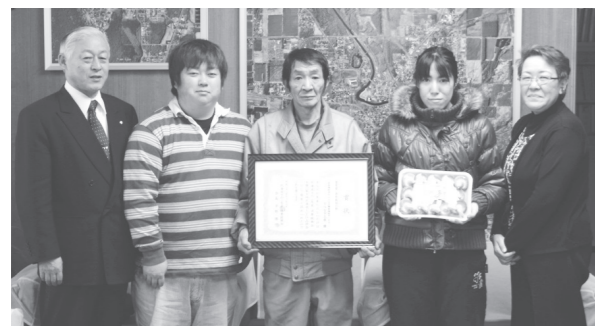
町の話



町の話

おいしいシイタケ栽培を評価

てつなぎ工房がしいたけ品評会で優秀賞



受賞の報告に訪れたてつなぎ工房の皆さん

品評会には今回初めて出品し、見事優秀賞に輝きました。

施設長の高砂弥生さんは「この夏の猛暑で収穫が遅れ心配でしたが、品質の良いシイタケができてよかった。受賞は、作業に当たっている全員でとても喜んでいきます。これを励みに、今後ももっと頑張っていきたい」と話していました。

社会福祉法人てつなぎが運営する障がい福祉サービス事業所「てつなぎ工房」で生産・販売している「摩周産菌床しいたけ」が、11月6日に行われた北海道きのこ生産・消費振興会主催の第7回北海道しいたけ品評会で優秀賞を受賞しました。

品評会には全道から、菌床栽培の部に44点、原木栽培の部に14点の合わせて58点の応募があり、最優秀賞に次ぐ優秀賞には、両部門合わせて3点が選ばれました。

てつなぎ工房では、2009年から温泉熱を利用したビニールハウスでのシイタケ栽培を始めました。シイタケは鋼路管内のスーパーなどで販売され「水っぽくなくおいしい」「しばらく置いて色が変わらない」など好評を得ているとのこと。

手作りの催しに園児を招待

合同生活科「ましゅうランドへようこそ」



輪ゴム鉄砲でまと当てをする奥春別小学校のゲーム

園児は「どのお店も面白かった」と、うれしそうに話していました。

園児は6つのチームに分かれて、まと当てやモグラたたき、ポウリンクなどのゲームのお店を開店。招待された町内の保育園幼稚園園児約60人がお客さんとなり、各お店を回りました。ゲームの内容を園児が自分たちで考え、景品なども含めて手作りで準備したほか、当日は店番も体験。園児を相手に接客を行いました。また、他校児童との交流も深めました。

町内5つの小学校の1、2年生が集まり、お店屋さんごっこを楽しむ「ましゅうランドへようこそ」が12月2日、奥春別小学校(小松重敏校長)で合同生活科の授業の一環で、コミュニケーションの大切さなどを学ぶことを目的に、毎年行われているものです。川湯、和琴、美留和、奥春別、昭栄の各小学校の児童が参加しました。



川湯小学校のまと当て屋さんにも長蛇の列